

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770101731		
法人名	有限会社アイエヌエス		
事業所名	グループホーム ハートピア 2階		
所在地	福島県福島市北五老内町3番9号		
自己評価作成日	令和4年3月19日	評価結果市町村受理日	令和4年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和4年4月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・サブ理念に「その人がその人らしく生きるために」を掲げ、職員にははっきり浸透してケアをしている。 ・主治医は福島セントラルクリニックを開業。月二回の訪問診療をしている。処方箋をきり、薬局が配達する。 ・緊急時は夜間でもセントラルクリニックが受け入れ、スムーズに診療・治療が受けられる。また訪問看護と連携を取り、常に健康管理をしている。 ・看取り介護を導入している。ご本人ご家族様に安心して頂けるよう研鑽している。 ・福島市の旧市街地に立地の為、交通の便が良い。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 入居時、利用者と家族へ重度化・看取りに関する指針で事業所として対応できる内容について説明し、事前確認をしている。看取り期は、主治医・家族・職員及び非常勤の看護師が連携し、利用者・家族が安心して看取り期を過ごせる取り組みをしている。 2. 一人一人を尊重し、支援に努めている。嫌がる事は無理強いしないことを基本とすることを職員に浸透させ、入浴・排泄は希望があれば同性介助で対応し、利用者が尊厳をもって暮らせるよう支援に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングにある理念、サブ理念を職員で共有し実践できるようにしています。	法人理念を基にサブ理念を作成し、リビングに掲示し実践に繋げている。利用者一人一人のその人らしさを尊重した対応に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧板をまわしています。敬老会の記念品をもらったり、お世話になっている民生委員には毎年お歳暮を送ったりしています。	コロナ前は、中学生の職場体験の受け入れや日本舞踊、腹話術、大正琴等のボランティアの訪問を受け入れていたが自粛している。現在は、民生委員の訪問等の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームを利用したご家族の知人が困っている時に、当ホームを紹介し入居されたり家族が相談しに来ています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	事故再発防止・行事・感染症対策・利用者や職員の現状をサービス向上出来るよう話し合っています。	外部委員が出席した運営推進会議の開催を自粛し、職員のみで開催しその結果を書面にして報告している。行事、事故・転倒、防災・防火、コロナ感染対策等の取り組み状況の結果を委員の他、全利用者の家族へ郵送報告し、電話等で意見をいただきサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所担当者に電話や訪問し、助言や情報もらったりしています。	市担当者から、メールで情報提供がある。担当者へ電話で相談し助言を得る等しながら、情報を共有し協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の研修に参加し、全職員で情報を共有しています。	指針に基づいて定期的に身体拘束防止委員会を開催している。外部研修で学んだものを、伝達研修を実施し、職員へ周知している。また、運営推進会議で身体拘束の状況について報告し、全家族へ郵送報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に参加し、全職員で情報を共有しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している利用者があるので、職員間で学ぶ機会がありました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約資料を事前に読んでもらい、契約時に管理者とフロアリーダーも同席し再度説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルスの為に運営推進会議に家族の参加は中止していますが、報告書は毎回郵送しご意見箱は玄関に設置しています。	利用者とは日々のふれあいの中から意見を聞くよう心掛け、家族からは電話の他、利用者への届け物や通院対応の来所時に意見を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者との話ができる機会があり、職員の意見・提案を汲み取っています。	管理者は、職員と随時話し合う機会を設けている。また、カンファレンスでの話し合いや日々の業務の中で気軽に相談を受け、意見提案を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や管理者と話やすく、意見交換等がしやすいです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に定期的に参加し、職員間の情報交換もしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とのイベント参加や手伝いで、情報交換やアドバイスをもらったりしています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式等の本人・家族・ケアマネージャーからの情報を元にケアプランを作成し、本人が安心できるような信頼関係を作るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困りごと等も傾聴し、家族からも安心できる信頼関係を作るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所初日は夜勤2人で行い、様々な出来事に対応できるようにしています。コロナ以前は初日に利用者の家族と一緒に泊まったこともあります。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と掃除・洗濯物干しやたたみ等の家事や、トランプ・オセロ・カルタ取り等の娯楽も一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に定期的にマスクや衣類・日用品等の買い物をしてもらったり、家族から誕生日プレゼントを持って来たりしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの為現在直接の面会は出来ませんが、利用者馴染の美容室の方の面会があります。	コロナ禍で、面会や馴染みの場所への外出も自粛しているため、写真や手紙、電話で関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各利用者のスタイルに合うようリビングでの座席位置や、レクリエーション等での利用者間のコミュニケーションに職員が気を付けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談を聴き、関連施設に紹介したりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族、ケアマネジャーからの情報をもとに利用者本位のケアプランを作成しています。	日々の会話やふれあい、入居時のアセスメント等から思いを把握するよう心掛けている。困難な場合は家族の意見や日々の観察から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やセンター方式、家族からの話やケアマネジャーからの情報をもらいケアプランを作成しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情・仕草や食事・水分・排泄・睡眠・バイタルサイン等を日々記録し確認しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・介護員・ケアマネジャー・看護師・医師等と利用者の今に合った介護計画を作成しています。	入居時、1カ月分を作成し、3カ月ごとに見直しを行っている。カンファレンスでモニタリングを行い、サービス担当者会議で計画を作成している。また、身体に変化ある時は、現状に即したものに計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申送り・介護記録・職員連絡ノートで情報を共有しカンファレンスに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の今に合わせ、職員間で情報を共有し今に合ったサービスを提供しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスで人の多い場所に行けない為、駐車場の桜や近隣住宅のお花や信夫山を眺めたり話をしたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回の往診と、眼科通院に行っています。	契約時に事業所より入居後の医療受診について説明があり、かかりつけ医か往診診療である協力医のどちらかを選択できる。かかりつけ医受診の場合は家族対応でお願いしており、結果は家族より事業所に報告がある。月2回の往診の結果は、事業所より家族に電話等で報告がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	二週間に1回の訪問看護と、看護師兼ケアマネジャーからの助言や処置がすぐに受けられます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医との良好な関係により、病院関係者と情報交換や相談もスムーズに行えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針や意向同意書を記入してもらっています。終末期に近づいた時は再度家族と話をしています。	「重度化、看取りに関する指針」が作成されており、入居時に事業所として対応出来る内容について利用者・家族に説明があり同意を得ている。また、終末期を迎えるにあたり、医師から看取りについての説明があり、再度家族の意向を確認し、同意を得て、家族・医師・看護師・職員等が看取り介護計画の基、協力し支援に当たる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染症への初期対応マニュアルの共有、事故や発熱時は主治医に連絡し看護師にアドバイスをもらいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練と災害時の連絡を行っています。夜間対応避難訓練も令和3年度に独自に実施しました。	年2回火災避難訓練を実施し、夜間想定での避難訓練も行っている。コロナ禍のため、訓練には、地域の方や運営推進委員等との協力関係は無く、今後の課題として残る。令和4年には、消防署に訓練実施計画書を提出し、消防職員の立ち会いを得て総合防災訓練を行鶴予定である。非常時用備蓄品として米・水・缶詰類等が保存されている。	年間の防災訓練計画が立てられてなく、訓練回数も少ないため、今後、計画を立案し、夜間・火災・地震・風水害等を想定した訓練回数を増やし実施されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の時は特に気を付け、一人ひとりに合った声掛けを行っています。場合によって同性の職員が対応しています。	利用者が、現在まで培ってきた経験や生活習慣を職員一人一人が理解し、日々の支援に活かしている。また、日常の会話や振舞いから利用者の望んでいる事や思いを汲み取り、特に入浴・排泄介助時には、言葉や態度に気を配り支援している。接遇研修に参加し、職員のスキルアップを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話を傾聴し、状況に合わせた対応をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おやつやレクリエーション、体操の声掛けなど無理せず本人のペースで参加してもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期で理容師に髪をカットしたり染めたりしています。電気シェーバーや化粧品も使用している利用者もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節行事の食事やお菓子作りを行っています。弁当食やパン食もあります。	食事が楽しいものになるよう、利用者が、今まで経験して来た食事に関する作業を職員と一緒にやっている。職員がメニューを作成し、食材は地元の業者から取り寄せている。食事に変化をもたせるため、行事食として弁当食や朝食にパン等を取り入れている。また、手作りのおやつも楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせ食事形態を常食・刻み・ミキサーと変えています。食事量や水分量は記録し管理しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科往診での口腔ケア指導をもとに、介助や見守りをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録や本人の排泄パターンを確認し、利用者に合わせた声掛けや誘導をしています。	利用者一人一人の排泄チェック表や排泄パターン、仕草等から把握し、羞恥心等に配慮し、プライバシーを守りながらトイレへの声掛け・誘導・見守り等の支援を行っている。事業所の目標として出来る限りトイレでの排泄が継続されるよう支援に努めて、綿パンツ使用者も数名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に合わせ牛乳・ヨーグルト・蜂蜜を利用。主治医からのお薬も併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛け時には本人に合わせています。入浴剤を選んでもらったり、季節のゆず湯や菖蒲湯も行っています。	入浴は、週2回を基本にしているが、利用者の体調や気分を考慮し調整している。入浴が楽しくなるよう歌を歌ったり、職員と会話をしたり、入浴剤を使用し支援している。また、ゆず湯や菖蒲湯等を取り入れ、季節感を味わってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温や調光の確認をしています。テレビを観たりラジオを聴いたり、読書してから寝られる利用者もいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は送りや記録にて全職員で確認。服薬時は飲む前に名前を再度確認し、複数の薬は持たない様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	オセロ、トランプ、カルタ、パズル、塗り絵等や掃除、洗濯物等を職員と楽しく行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの為人がいる場所への外出は控えています。施設の花壇やプランターに水やりや外気浴をしています。	コロナ禍の現状では、外出を控えており、事業所の前の桜を愛でたり、気候の良い日には、花壇やプランターの世話をしながら、外気浴、気分転換を図っている。理容は、訪問を利用し、面会は、ガラス越しで行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として家族から預かり、施設にて管理をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から手紙・ハガキもあります。電話で楽しく会話される姿も見られます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には利用者の作品や行事の写真が飾ってあります。室温や調光は職員が気を付けています。	共用空間であるリビングや廊下には、季節を感じられるアサガオやスイカ、秋の実り等の貼り絵、思い出の残る行事の写真等が飾られ気の休まる穏やかな生活空間が作られている。また、写真による職員紹介もなされている。換気や温湿度の管理、清掃等は職員が行っており、衛生管理に務めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで利用者各々オセロで対戦されたり、新聞を読まれたり、塗り絵をされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	家具や置物等馴染みの物をお部屋に置かれています。誕生日の色紙や季節の飾り等もあります。室温や調光も職員が気を付けています。	利用者個々の居室には、家族と相談の上、自宅で馴染みのある使い慣れたテレビ、衣装ケース、テーブル、椅子等が配置されている。また、家族や知人の写真、趣味の作品等が飾られ、心休まる生活環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・お風呂へは、看板・矢印・目印等で自力で向かえる様にしています。迷っている時には職員が誘導しています。廊下に不要な物はおかない様にしています。		